

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
芸術	音楽 I	2	選択	共通	1

教科書（発行所）	音楽 I 改訂版 Tutti+（大修館書店）
教科書以外の教材	Music Note（啓隆社）

目 標	<p>1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p> <p>2 自己のイメージをもって音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
-----	--

学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期 オリエンテーション —未知なる音楽の世界を求めて—  諸外国の曲を歌おう  音楽の特徴を捉えよう① —バロック時代の音楽—	<p>校歌や J-POP を通し、歌唱の楽しさを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また、自分にとっての音楽の存在を再認識するとともに様々な音楽に自ら積極的に関わり、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとする態度を養う。</p> <p>イタリア語やドイツ語の言葉の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心をもち、言葉の抑揚や言語のもつ質感を捉えながら表情豊かに歌う。</p> <p>西洋音楽のおおまかな流れを理解するとともに、バロック時代の音楽を鑑賞し、その特徴や表現について理解を深める。</p>	<p>ノート提出</p> <p>実技テスト</p> <p>鑑賞シート</p>
	2 学期 ギターに親しまう  変奏曲をつくろう —音楽を形づくっている要素のはたらきと効果—  音楽の特徴を捉えよう② —古典派の音楽—  世界のさまざまな音楽の魅力 I —和楽器に親しむ—	<p>ギターの奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。</p> <p>音楽を形づくっている要素について学習し、要素の働きを変化させて変奏曲を創作する。</p> <p>古典派の音楽を通して、オーケストラの響きや、ソナタ形式において主題が展開されたり再現されたりするおもしろさを味わいながら聴く。</p> <p>和楽器の表現活動を通して日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取る。また、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。</p>	<p>実技テスト</p> <p>作品提出</p> <p>鑑賞シート</p> <p>実技テスト ワークシート</p>
	3 学期 物語と音楽との関わりに注目しよう —総合芸術における音楽の魅力—  世界のさまざまな音楽の魅力 II —世界の音楽—  コード（和音）を理解しよう	<p>オペラやミュージカル、歌舞伎などの総合芸術において物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響を合せて発展してきたかを考える。</p> <p>世界の諸民族の様々な音楽から音楽表現の多様性を捉えるとともに、諸民族の音楽と日本古来の音楽との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。</p> <p>和音、和声を学習し、旋律に合う和音を選んで創作活動をする方法を学習する。</p>	<p>ノート提出</p> <p>ノート提出</p> <p>作品提出</p>

授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	<p>1 移動教室のため、遅刻をしないように時間に余裕をもって行動しましょう。</p> <p>2 自分なりの目標を定めて授業に臨みましょう。</p> <p>3 楽器やその他の道具は丁寧に扱しましょう。</p> <p>4 音楽の基礎的事項や魅力を理解し、生涯にわたって音楽を愛好することができるようになりましょう。</p>
----------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>	<p>音色、リズム、旋律、強弱、構成等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
評価の方法	上記の3観点を中心に、各学期の評価は、実技テスト・レポート提出、作品発表、確認テスト（授業の中で行う）、学習活動への参加状況を総合的に判断して行う。定期考査は行わない。		